

平成26年10月31日

愛知県 地域包括ケアモデル事業、在宅医療連携拠点推進事業 合同報告会

受託事業名 在宅医療連携拠点推進事業

尾北医師会 在宅医療連携拠点推進事業 中間報告

一般社団法人尾北医師会
在宅医療連携拠点推進室
室長 宮島まち子

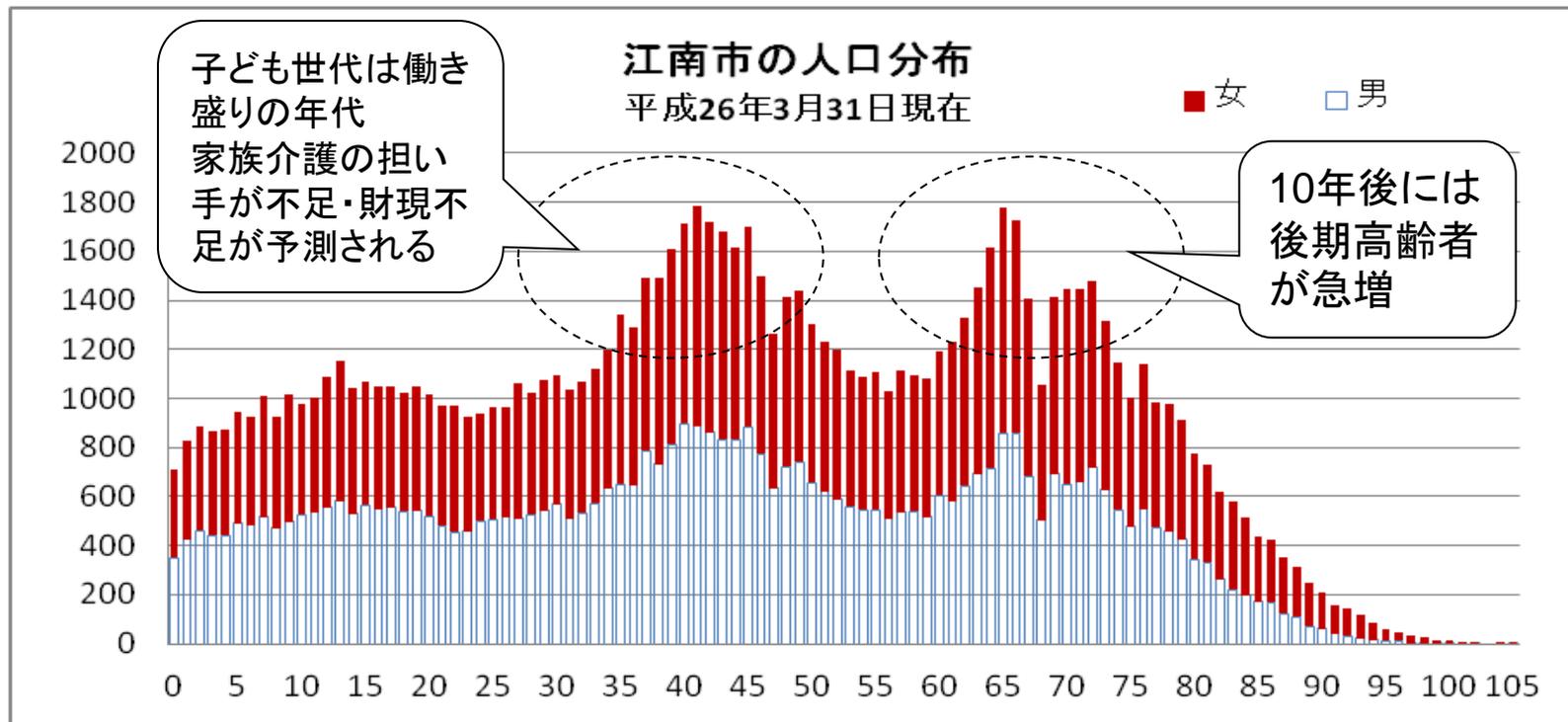
尾北医師会管内地域の特徴

- ・尾北医師会 会員数:A会員133名 B会員152名 医療機関数:132機関
江南市・犬山市・丹羽郡大口町、扶桑町 (平成26年9月1日現在)
- ・2市2町の75歳以上高齢者のピークは自治体ごとに差があるが、高齢者を支える世代の減少と財源不足の予測は共通している。

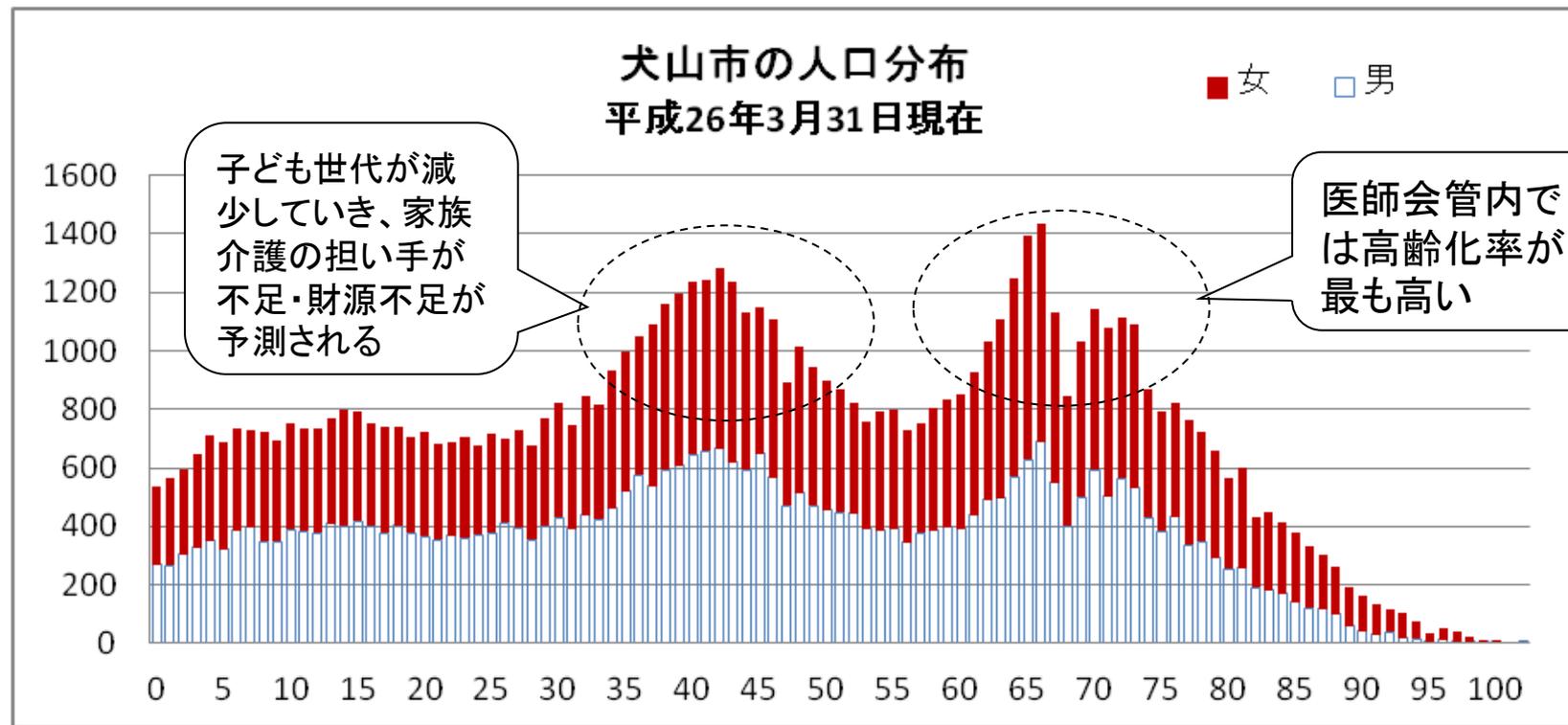
自治体名	人口	高齢者数	高齢化率
江南市	101,235	25,132	24.8%
犬山市	74,881	19,574	26.1%
大口町	22,485	4,805	21.4%
扶桑町	34,346	8,477	24.7%

平成26年3月31日現在

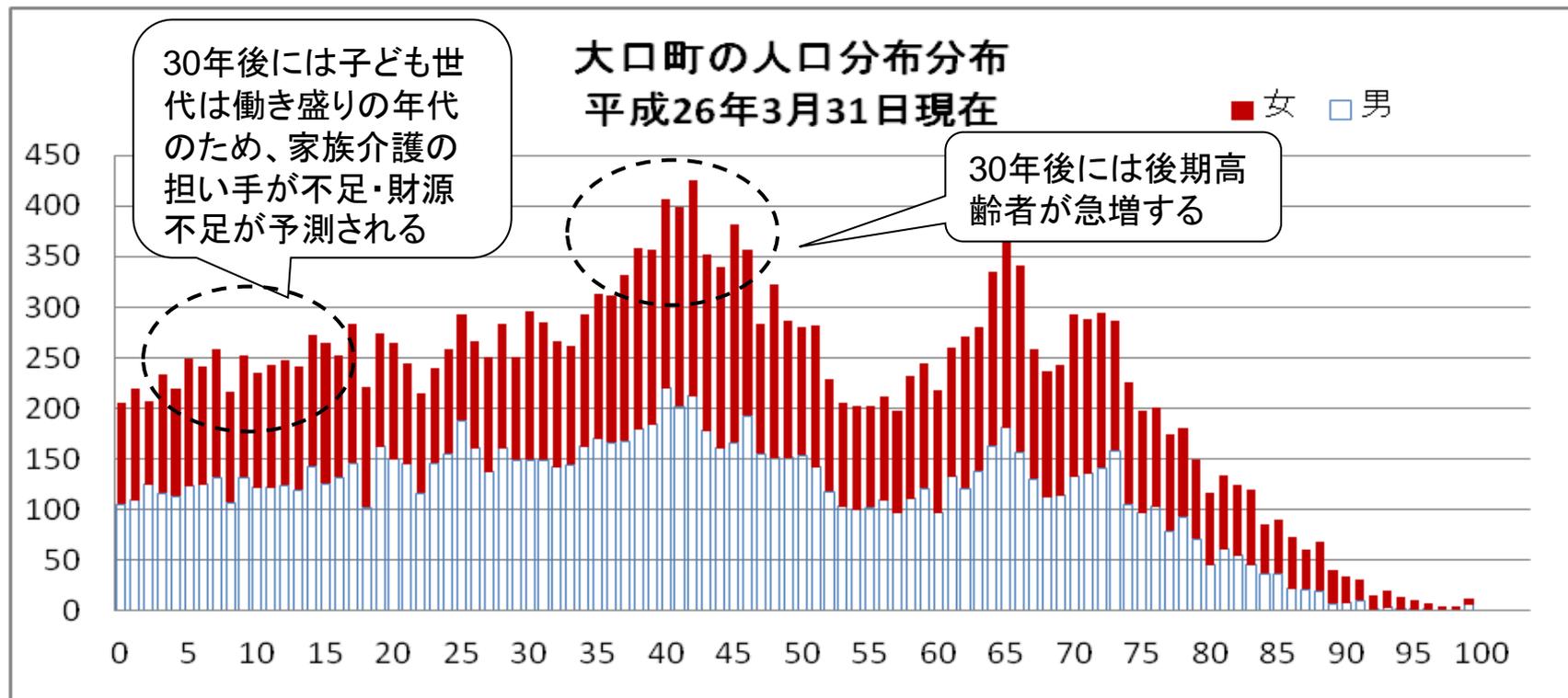
江南市の人口構成



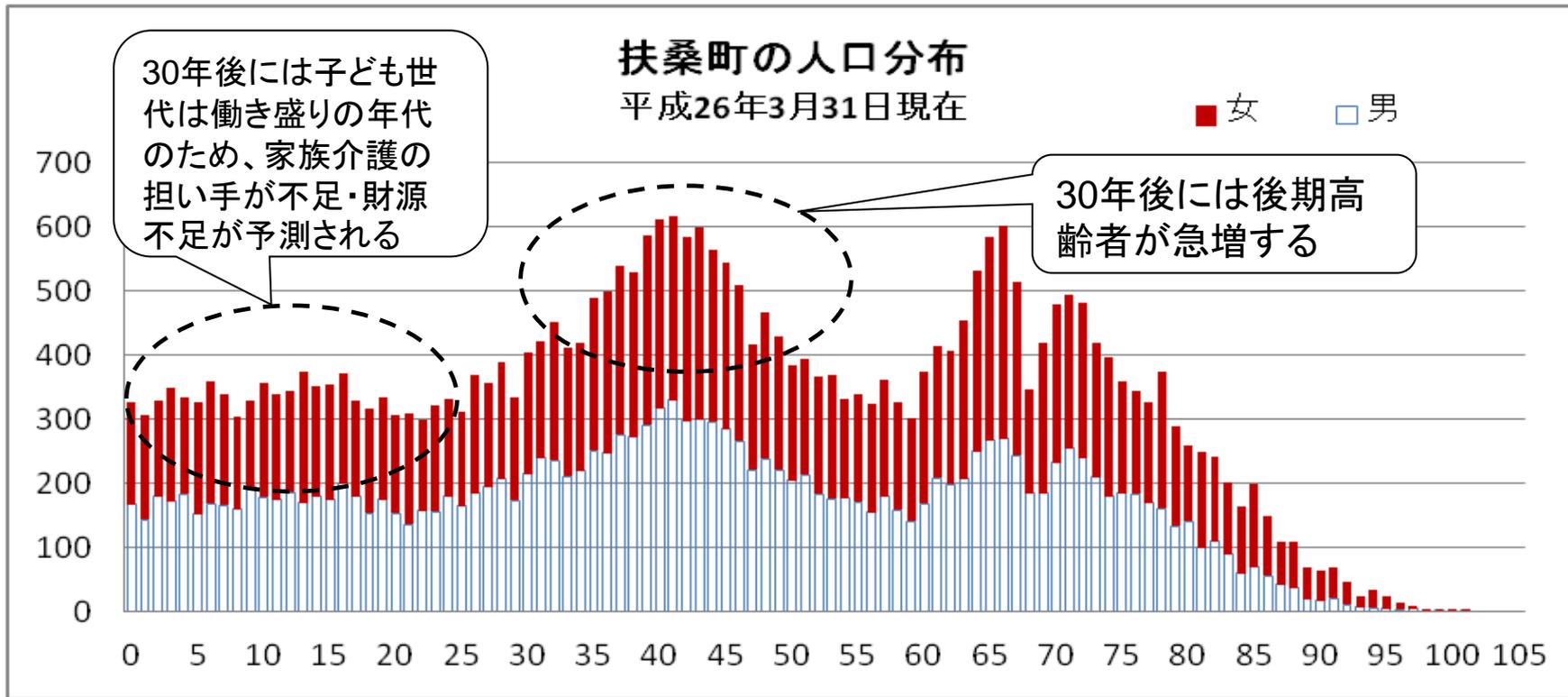
犬山市の人口構成



大口町の人口構成



扶桑町の人口構成



尾北医師会の特徴

1. 尾北医師会の強み

- ① 平成12年から地域ケア協力センターを設置して社会福祉士を配置し、従来から多職種連携に向けた取り組みを実施している。
 - ・ 医師会管内のケアマネジャーを対象とした事例検討会や、介護事業者を対象とした研修会を継続的に実施し、介護従事者との「顔が見える関係」をつくっている。
 - ・ 管内2市2町の高齢者及び介護保険担当課と定期的に連絡会を設けており、広域的に高齢者問題に関する課題を把握している。
 - ・ 管内2市2町の地域包括支援センターと定期的に連絡会を設けており、広域的に高齢者問題に関する課題を把握している。

尾北医師会の特徴

1. 尾北医師会の強み

- ② 補助事業実施にむけて江南市内の多職種の方の協力を得て、在宅医療支援ネットワーク会議や作業チームを設置し、参加者の意見を反映した事業を進めることができている。

2. 尾北医師会の弱み

- ① 在宅医療について関心が高い医師とそうでない医師との差が大きく、研修会や交流会への医師の参加が少ない。
- ② 広域的な取り組みを行なうためには保健所との協働が必要だが、現状では保健所の機能を活かした協力依頼ができていない。

江南市の特徴

1. 江南市の強みとそれを活かした活動

- ① 江南市が実施する健康診査の説明会に、江南市内医療機関の出席率が高い。
- ② 江南市が実施する健康フェスティバルに、医師会・歯科医師会・薬剤師会の協力が得られている。
- ③ 江南市の独居高齢者見守り支援や認知症、高齢者虐待に関する対応では、地域包括支援センター、医療ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、社会福祉協議会などの専門職・機関とのネットワークができている。
- ④ 母子保健では、江南厚生病院の医療ソーシャルワーカーと定期的に連絡会を設けている。

江南市の特徴

2. 江南市の弱み

- ・ 市民のニーズ調査では「介護が必要になったとき、自宅で生活したい」という意見が半数以上あった。行政と専門職とのネットワークはできつつあるが、在宅医療に関する体制の構築が十分できているとはいえない。

尾北医師会管内地域の弱み⇔強み

- ① 医師会が2市2町（江南市・犬山市・丹羽郡扶桑町、大口町）にまたがっており、地域によって多職種ネットワークや社会資源、財源等の課題が異なる。
- ② 平成27年度以降、在宅医療連携を管内に広げていく場合、他市町の課題を把握していく必要がある。



ICT導入など、共通する課題については
広域的に広げていくことが可能である。

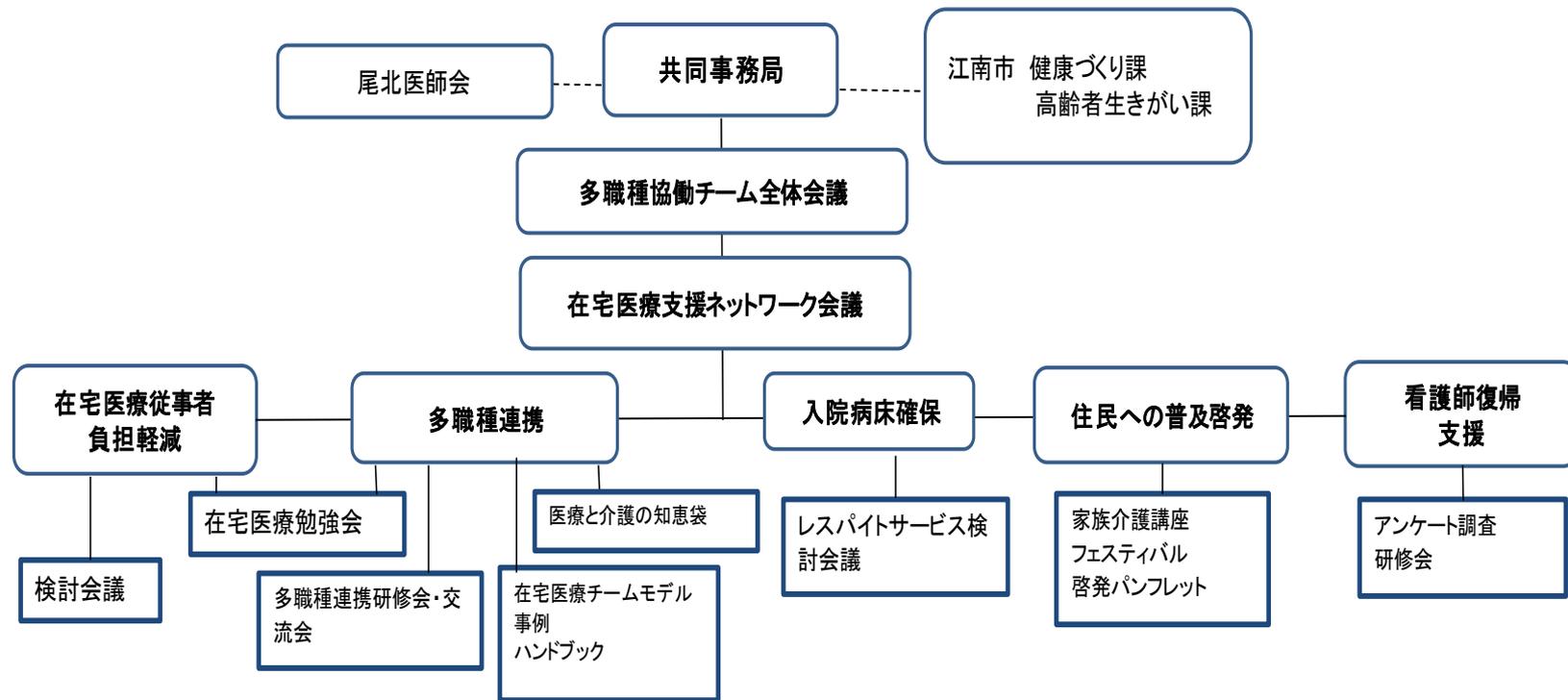
担当組織

1. 事務局 尾北医師会・江南市共同事務局

趣旨	尾北医師会・江南市の共同事務局において、本事業を円滑に進め、次年度以降も継続していくための各種打ち合わせを実施している。
構成メンバー	江南市健康づくり課 2名(保健師) 江南市高齢者生きがい課 2名(保健師、事務職) 尾北医師会 会長、事務局長 尾北医師会 在宅医療連携拠点推進室 2名(保健師、社会福祉士)
開催実績	<ul style="list-style-type: none">平成25年度(1月～3月):7回平成26年度(4月～9月):13回
今後の予定	毎月1回以上の定例的な開催を予定している



組織図



担当組織

2. 現状

- ① 会議や事業の前に打ち合わせを行っているが、江南市と尾北医師会の都合が合わずタイムリーに打ち合わせができない。
- ② 尾北医師会では、在宅医療連携拠点推進室を立ち上げ、事業の実施にあたっているが、計画の遂行に追われている。
→ 限られた時間の中で、4月から9月までの期間に13回の事務局会議を実施。
- ③ 江南市と共同事務局で事業を進めているが、行政と医師会の役割が明確にされていない。

担当組織

3. 解決策

- ① 江南市では、課内職員を対象に、地域包括ケア構築に向けて、担当者が講師となり介護保険制度の改正を踏まえた現状や課題、在宅医療などの勉強会を実施。
- ② 尾北医師会では、病診連携・施設間連携委員会を立ち上げ、在宅医療に関する課題について検討する場をもつことを予定している。
- ③ 広域で対応が必要な事業は、尾北医師会管内自治体や保健所の役割を理解し、連携を密に図る。

担当組織

4. 提案

- ① 在宅医療を推進するためには、医療用語が分かる担当者、事務作業を行う担当者の配置が望ましい。
- ② 専門職などとの関係づくりができるコーディネート能力が高く、在宅医療の推進に意欲的な職員の配置が必要。

地域の顔の見える関係作り 1

～在宅医療支援ネットワーク会議～

○会議実施にあたっての事前準備

- ・平成26年5月の支援ネットワーク会議の立ち上げに向けて、担当者1名が構成メンバー全員を訪問し、事前説明と協力依頼を行った。

時 期:平成26年4月

訪問先:歯科医師会の代表・薬剤師会の代表

訪問看護ステーションの管理者 3名

医療ソーシャルワーカー 2名

地域包括支援センターの管理者 1名

介護支援専門員団体の代表 1名

○メンバーの反応

- ・必要なことなので協力したい。
- ・いつ声がかかるのか待っていた、取り掛かりが遅いのではないか。
- ・学区単位など、小地域での取り組みを進めてほしいという意見があった。

在宅医療支援ネットワーク会議

趣旨	本事業のモデル地域である江南市の医療・介護の多職種専門職が定例的に集まり、事業の進捗状況に関する意見交換や課題の共有化を行っている。
構成メンバー	<ul style="list-style-type: none">・ 医師・ 歯科医師・ 薬剤師・ 訪問看護師・ 医療ソーシャルワーカー・ 地域包括支援センター・ 居宅介護支援事業所・ 江南市 健康づくり課・ 江南市 高齢者生きがい課・ 尾北医師会 会長・ 尾北医師会 事務局長・ 尾北医師会 在宅医療連携拠点推進室 
開催実績	平成26年度(5月～9月):5回
今後の予定	毎月1回の定例的な開催を予定している

地域の顔の見える関係作り

1. 課題

多職種が集まる場合、診療時間や勤務時間の違いから、会議開催日程の調整が非常に困難であった。

2. 事前訪問の効果

事前に訪問して趣旨説明を実施したため、日程調整のお願いに応じていただくことができ、初回の支援ネットワーク会議の開催において、構成メンバー全員に出席していただくことができた。

地域の顔の見える関係作り

3. 多職種連携の課題の把握

多職種を対象とした在宅医療に関するアンケートに加えて、歯科医師会と薬剤師会の代表にヒアリングを実施。

4. 江南市の今後の課題

医師会は2市2町を管轄しているため、江南市内の多職種の代表へのアプローチを行ったが、江南市と共同事務局であることから、次年度は江南市が市民や多職種に直接働きかける機会を持つ必要がある。

地域の顔の見える関係作り

在宅医療の推進に関するアンケート調査を実施

趣旨	各機関の現状や連携における課題等を把握し、地域の医療・福祉資源の有効活用や不足資源の確保に関する方策に反映させていくための基礎資料として実施した。
対象	<ul style="list-style-type: none">・ 医師(尾北医師会会員)・ 歯科医師(尾北歯科医師会、犬山扶桑歯科医師会)・ ケアマネジャー ・ 地域包括支援センター ・ 訪問看護ステーション
期間	平成26年3月
回収状況	合計 253件 回収率48.4%
ヒアリング調査	<ul style="list-style-type: none">・ 尾北歯科医師会・ 犬山扶桑歯科医師会・ 尾北薬剤師会
集計結果	平成26年6月に報告書を作成し、各所への報告済み

アンケート結果から把握した課題

- ① 主治医とケアマネジャーとの連携の促進にむけて、交流を促進する
- ② 多職種の専門性を知り、「連携」の具体的なイメージについて統一化する
- ③ 多職種間の情報の共有化について検討する
- ④ 訪問診療を行う医療機関へのサポートや医師の負担軽減
- ⑤ 市民への在宅医療の啓発
- ⑥ 関心の高いテーマを題材にした研修会の企画・実施
- ⑦ レスパイト入院の検討

地域の顔の見える関係作り 2

～在宅医療の勉強会～

趣旨	在宅医療について多職種で情報共有する機会が少ない中、基礎的知識や事例などを相互に学び、顔の見える関係づくりを行う。
作業チーム	<ul style="list-style-type: none">医師、江南厚生病院医療福祉相談室、地域包括支援センター、尾北医師会在宅医療連携拠点推進室
参加者	<ul style="list-style-type: none">医師歯科医師薬剤師訪問看護師 ・看護師医療ソーシャルワーカー地域包括支援センター職員ケアマネジャーサービス事業者 その他  
会場・時間	江南厚生病院講堂 毎月第3木曜日 20:00～21:00
開催実績	平成26年8月より 2回 参加者:第1回77名、第2回61名
今後の予定	平成27年3月まで、毎月開催

地域の顔の見える関係作り 3

～多職種合同研修会・交流会の検討～

趣旨	地域の特性や課題を踏まえた「顔の見える連携」を促進するために、医療・保健・福祉・介護の専門職を対象として実施
作業チーム	・居宅介護支援事業所 ・地域包括支援センター ・江南市 ・尾北医師会在宅医療連携拠点推進室
対象者	<ul style="list-style-type: none">・ 医師・ 歯科医師・ 薬剤師・ 訪問看護師・看護師・ 医療ソーシャルワーカー・ 地域包括支援センター・ ケアマネジャー
開催予定	第1回 平成26年10月25日(土) 14:30～17:00 「一緒に考えませんか？10年後の地域の医療を！ ～これからの江南市の在宅医療の課題～」 第2回 平成26年12月4日(木) 13:30～16:00 『「口から食べる」を支える 在宅での口腔ケアについて考えよう』 第3回 平成27年1月31日(土) 14:00～16:00 「調整中」

多職種合同研修会・交流会

一緒に考えませんか？10年後の地域の医療を！

～これからの江南市の在宅医療の課題～

今年度尾北医師会では、在宅医療推進に向けた多職種連携の取り組みを進めています。
尾北地区の医療・介護従事者の「顔の見える関係」づくりをめざした多職種合同研修会・
交流会を開催することとなりました。尾北地区の多職種連携がよりいっそう充実したもの
になるよう、みなさんのご参加をお待ちしています！

～プログラム～

第 1 部□研修会□□14：30～□

講演□「多職種協働による在宅チーム医療□

～江南市の課題を踏まえて～」□

講師□□三浦□久幸□先生□

（国立長寿医療研究センター□在宅連携医療部長）□

□

第 2 部□交流会□□15：45～□

日時 10月25日（土） 14時30分～17時

場所 江南厚生病院 講堂

対象 江南市内に勤務する 医師、歯科医師、薬剤師

ケアマネジャー、訪問看護師、医療ソーシャルワーカー

地域包括支援センター、保健所、行政職員 等

定員 70名

申込み 申込書を記載の上、FAXにてお申込みください。

（10月3日（金）締切）□

問合せ：尾北医師会□在宅医療連携拠点推進室□

□丹羽郡大町下小口六丁目□22-2□□

□TEL（0587）95-7027□

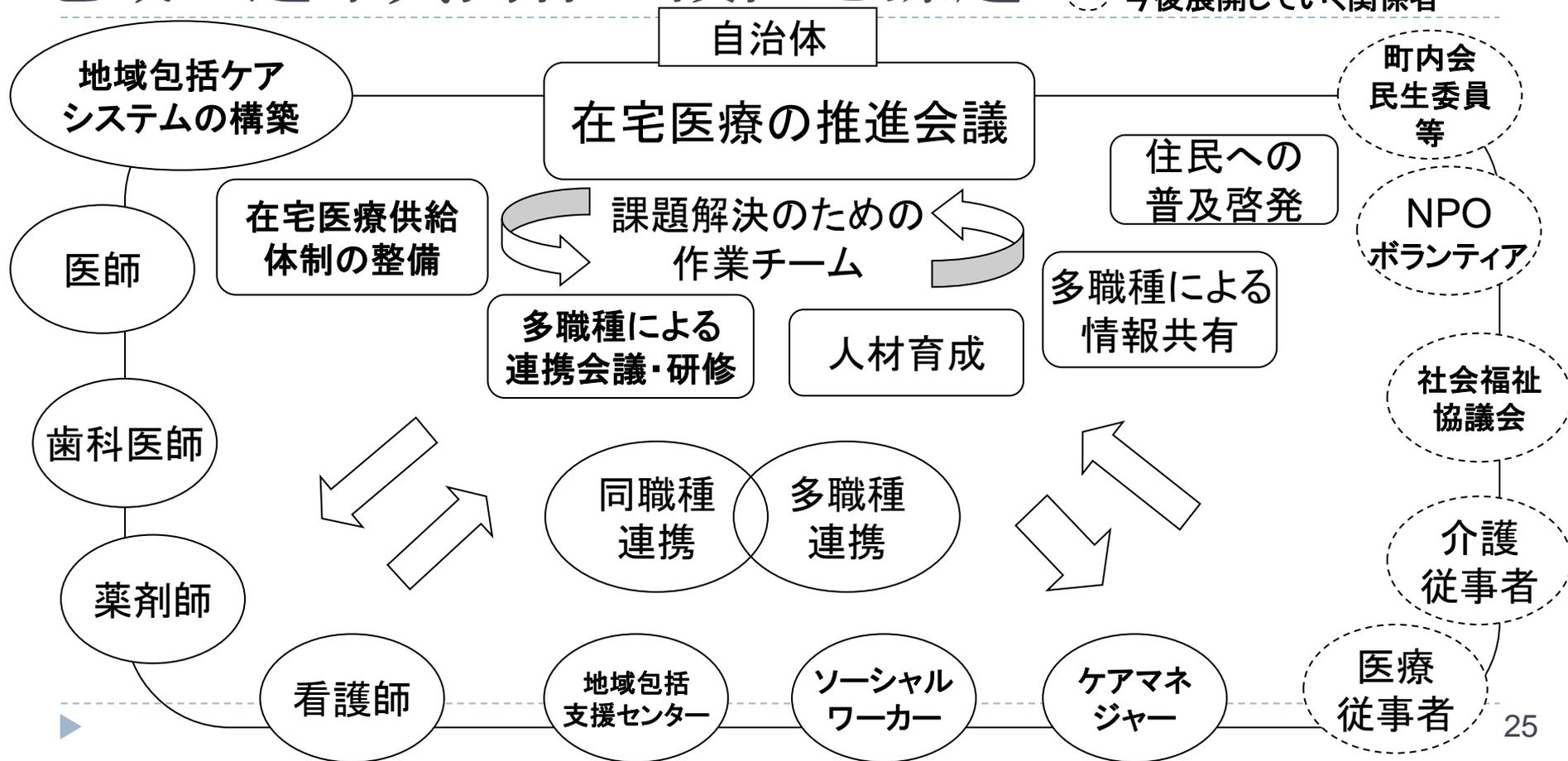


名刺をお持ち
ください！

地域の運命共同体の設置と課題

○ 関係者

○ 今後展開していく関係者



地域の運命共同体の設置と課題

1. 開始当初の課題と解決策

在宅医療支援ネットワーク会議開催当初は、事務局が企画した各種事業案の承認の場になってしまい、参加メンバーの専門的知識を活用する機会に乏しかった。

そのためネットワーク会議のメンバーから作業チーム体制を組織し、参加型の事業展開になるよう努力している。

2. 得られた効果

作業チームを組織し多職種専門職が共同で話し合うことで、現場の課題やニーズを事業に反映することが可能となった。

地域の運命共同体の設置と課題

3. 今後の課題

- ① 計画が多岐にわたっているため、どうしても事業を中心とした話し合いになってしまう。来年度以降、在宅医療の推進を江南市がどのように進めていくのか方向性がはっきりしない段階だが、今後の支援ネットワーク会議では、事業継続のための話し合いを中心に進めていくことを想定している。
- ② 尾北医師会管内2市2町を対象とした「多職種協働在宅チーム全体会議」を実施しているが、補助期間終了後、どのような役割を担う会議とするかについて検討が必要である。

多職種協働チーム全体会議

趣旨	尾北医師会2市2町の広域で、多職種専門職の相互交流と連携促進課題について恒常的に検討する機会として実施している。
構成メンバー	<ul style="list-style-type: none">• 尾北医師会• 尾北歯科医師会• 犬山扶桑歯科医師会• 尾北薬剤師会• 保健所• 行政• 訪問看護ステーション• 地域包括支援センター• 医療福祉相談室• 居宅介護支援事業所• 尾北看護専門学校 
開催実績	• 平成25年度:2回 ・平成26年度:2回
今後の予定	第5回 平成27年2月13日(金)

地域の課題と解決策

事業開始前に事務局が捉えていた課題

- ① 医師の関心に温度差があり、同職種連携を進めていく必要がある。
- ② レスパイトサービスについては、介護保険施設と医療機関において対応されていると想定。

事業開始後に見えてきた優先順位の高い課題

- ① 医師への啓発を行い、医師会内での連携を促進するために、病診連携・施設間連携会議を立ち上げていく。
- ② - 1 医療機関の役割の理解が不十分であるため、研修会を実施して共通理解を図る機会を設ける。
- ② - 2 レスパイトサービスに関するニーズ把握調査を実施する。

前半の振り返りと改善策 (ロードマップ)

		2014年(平成26年)						2015年(平成27年)									
項目	事業内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1	事務局会議	毎月1～2回程度開催															
	在宅医療支援ネットワーク会議					26日	23日	28日	25日	22日	27日	17日	22日	26日	23日	23日	
2-(1)	多職種協働チーム全体会議		在宅医療講演会	20日			6日				3日				13日		
	多職種連携アンケート			調査実施		報告書作成	報告書配布										
2-(2)	病診連携・施設間連携委員会																
3-(1)	在宅医療チームモデル事例検討会議								20日	8日	6日	11日				配布	
3-(2)	医療と介護の知恵袋改定等検討会議								8日	2日	7日	4日	月1回程度開催予定			配布	
3-(3)	在宅医療の勉強会								21日	18日	16日	20日		15日	19日	19日	
	多職種合同研修会・交流会		4日								25日		4日	31日			
4-(1) 4-(2)	レスパイトサービス検討委員会								7日	10日	8日	12日	月1回程度開催予定				
5-(1)	家族介護講座									17日	16日	13日	地域包括支援センター・行政で評価				
	在宅医療推進フェスティバル											23日(祝)					
	啓発活動								尾北ホーム ニュース HP開設	広報		広報					
5-(2)	在宅医療啓発パンフレット								20日	8日	6日					配布	
6	看護師復帰支援カムバック研修								23日同窓会		潜在看護師 実態把握ア ンケート						

前半の振り返りと改善策

○前半の振り返り

江南市をモデル地域として事業を実施したが、家族介護講座や在宅医療の勉強会を実施したところ、江南市外の地域からの参加者も多く、関心の高さを伺うことができた。

○課題と改善策

事業実施が10月以降に集中しているため、事業評価ができていない。各作業チームにおいて自己評価と普及啓発活動についての提案をまとめた後、在宅医療支援ネットワーク会議において評価することにより、次年度以降の事業展開へと反映できると考えている。

皆様に知ってほしい！

当地域の特徴的な活動

★在宅医療の勉強会★

- ・お互いの職種を理解する場、医療知識などを学習し、医師との関係づくりの場として、8月から月1回実施している。
- ・平日の夜8時～9時という時間帯の開催にもかかわらず、60～70名が参加。

○企画・運営を担当する作業チームとして、医師、医療ソーシャルワーカー、訪問看護認定看護師、地域包括支援センターがメンバーに加わっており、医療現場の課題を反映しながら企画立案ができています。



在宅医療の勉強会

開催のご案内

在宅医療連携を進めていくうえで、医療と福祉の関係者むけに以下の通り勉強会を定期開催します。日頃、在宅医療について多職種で情報共有する機会が少ない中、テーマに沿って基礎的知識や事例など相互に学ぶ機会とします。是非とも、顔の見える連携を目指し、ご参加ください。

<2014年度開催日程>

- 開催日程：原則 毎月第3木曜日
- 開催時間：20:00～21:00
- 場 所：江南厚生病院 2階 講堂
- 対象者：医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護ステーション、看護師、医療ソーシャルワーカー、地域包括支援センター、ケアマネジャー、サービス事業者

	日 程	テーマ	講 師
1	08月21日(木)	神経難病患者の在宅支援 神経難病について、その特徴と支援	池田医院 池田 隆先生
2	09月18日(木)	歯周病病原菌は何をしているのか 口腔ケアの重要性	尾北歯科医師会 中村 富士嗣 先生
3	10月16日(木)	糖尿病の患者の理解 インスリン自己注射	訪問看護認定看護師 伊藤裕基子 看護師
4	11月20日(木)	在宅での栄養管理 胃ろう、点滴での管理の実際	ながお在宅クリニック 長尾 強志 先生
5	01月15日(木)	在宅での呼吸管理 在宅酸素、人工呼吸器	池田医院 池田 隆 先生
6	02月19日(木)	在宅での排泄管理 自己導尿、カテーテル管理	訪問看護ステーション
7	03月19日(木)	フリーディスカッション 顔の見える連携① 今年度の勉強会の振り返り、次年度の実施内容についても含めて意見交換	

<毎回のタイムテーブル(予定)>

- 20:00～20:05 自己紹介
- 20:05～20:25 基礎知識の学習
- 20:25～20:40 事例紹介・サービス利用状況
- 20:40～ 質疑応答
- 21:00 終了・次回案内



参加希望者は、準備の関係で、当日までに事務局へご連絡ください。

勉強会事務局：江南厚生病院 医療福祉相談室（野田・伊藤）

TEL:0587-51-3333 FAX:0587-51-3317

皆様に知ってほしい！

当地域の特徴的な活動

★ 在宅医療モデル事例ハンドブック作成 ★

- ・訪問看護ステーション、ケアマネジャー、地域包括支援センター、江南市、医師会による作業チームで作成中。
- ・在宅医療を行っている介護者とケアマネジャーを対象に聞き取りを行い、家族の思いや専門職のかかわりについて事例をまとめている。ハンドブック作成後は、専門職向けの研修会等において、専門職の業務内容の理解や、多職種協働の促進に活用することを想定しており、他の拠点事業が実施していない特徴的な活動である。

在宅医療モデル事例

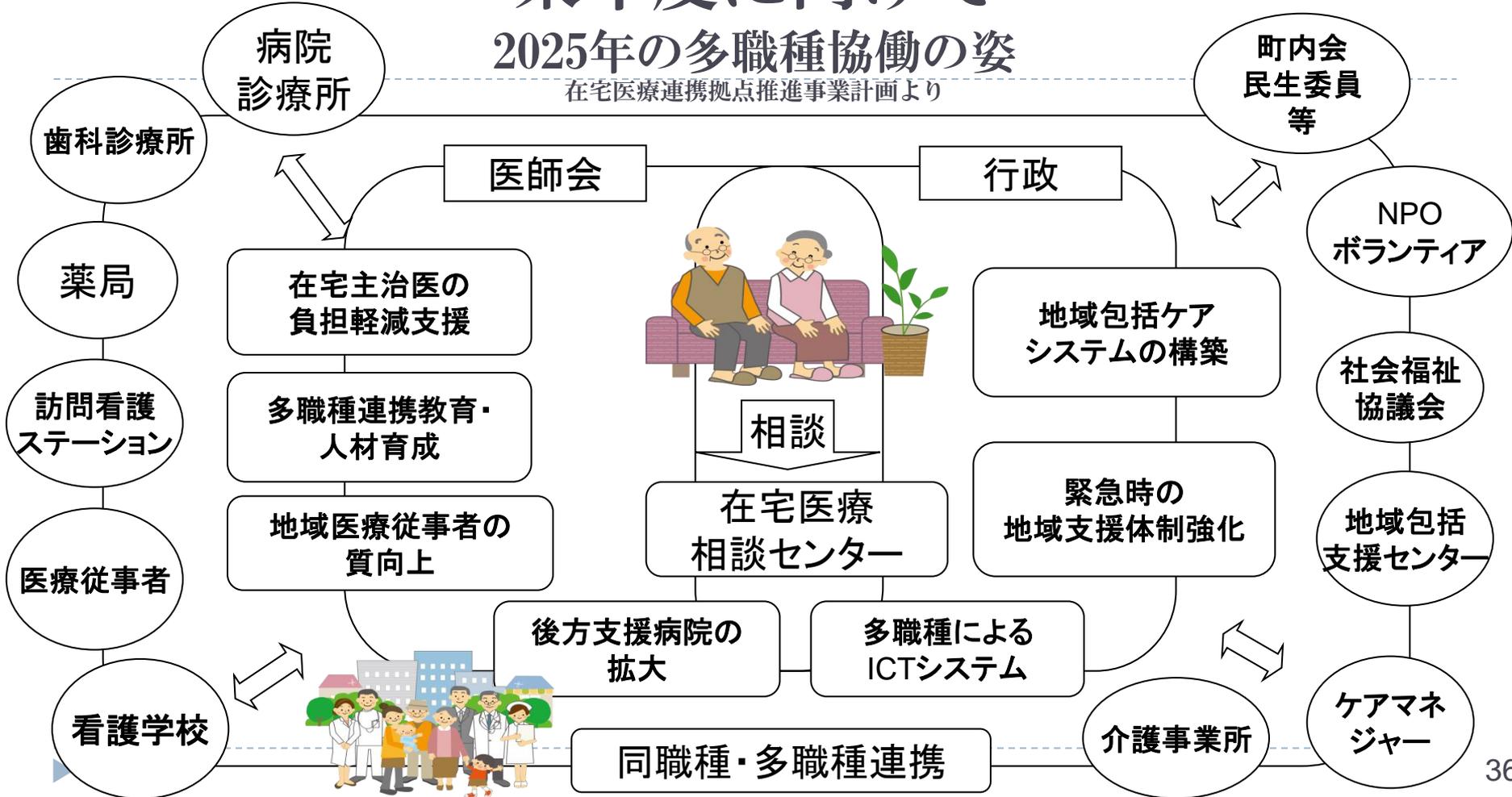
専門職向けハンドブックの作成

趣旨	在宅医療の実例をもとに、医学的な基本情報と多職種専門職が行う業務内容や多職種協働のための方法について掲載した専門職向けのハンドブックを作成し、在宅医療と多職種協働の普及と共通認識の向上をめざす。
作業チーム	<ul style="list-style-type: none">・ 訪問看護ステーション・ 居宅介護支援事業所・ 地域包括支援センター・ 江南市・ 尾北医師会 在宅医療連携拠点推進室
作成方法	<ol style="list-style-type: none">①ご本人・ご家族・ケアマネジャーからヒアリング②作業チームにおいて掲載情報の検討③医師の監修④支援ネットワーク会議参加メンバーによる意見交換及び情報の追加
現状	平成26年8月より2回(毎月1回)、作業チームでの検討
完成予定	平成27年3月中に完成予定、4月以降に、在宅医療に関わる専門職向けの研修事業等で活用予定

来年度に向けて

2025年の多職種協働の姿

在宅医療連携拠点推進事業計画より



来年度に向けて

1. 尾北医師会の課題

- ① 医師会員への啓発
- ② 各地域の特徴を踏まえた在宅医療の課題の解決(行政と協働)
 - ・在宅医療に関する各種研修会
 - ・24時間対応の在宅医療提供体制の構築に対する課題の検討
 - ・ICTの導入に関する検討 など
- ③ 広域的な多職種・同職種による情報共有の機会の検討
 - ・多職種協働在宅チーム全体会議の目的・実施方法 など

来年度に向けて

2. 事業実施後に挙げた課題（行政・多職種と協働で実施）

① 自治体ごとの推進会議の立ち上げ

- ・ 江南市においては、多職種との関係を維持しながらネットワークを継続していく。
- ・ 平成27年度は、江南市から尾北医師会管内の他地域に広げていくため、各市町の課題を把握し、解決するための会議を設置していくよう働きかけていく。

② 尾北医師会管内 2市2町の行政担当課による連携会議を組織する。

③ 尾北医師会管内の訪問看護ステーションの連携会議を組織する。

お問い合わせ先

一般社団法人尾北医師会 在宅医療連携拠点推進室

担当者：宮島・大藏

Mail：bihoku-zaitaku@wish.ocn.ne.jp

URL：http://bihoku.aichi.med.or.jp/category/zaitaku

TEL：0587-95-7027

FAX：0587-95-7028

住所：〒480-0144

丹羽郡大口町下小口6丁目122-2

